

一、能登郡は鹿嶋郡

自今以後如斯に書可申旨、元祿十三年八月廿日御算用場御奉行より小頭を以申渡。

右兩様元文四年九月八日御知行割留帳之内に有之候。

一、七尾を所口と唱候事、元祿十五年十二月二日に改る。

三六 越中五ヶ山名稱之事

五ヶ山之名

赤尾 上梨谷 下梨谷 小谷 梅谷

三七 領内物表高之事

三ヶ國并江州共御知行高辻帳に載る覺

一、百拾九萬貳千七百石 江州 共

内

拾七萬石 富山・大聖寺に引

残而

百貳萬貳千七百石

内

貳千七百石 江州

外

壹萬石 土方領引

三八 七木之事

持山有之七木盜伐仕候節は、禁牢之上一村一作壹歩過怠免之格に候。持林之儀茂、新川郡は持山同事過怠免之格に候。當國之儀は、持山・持林差別有之旨に候得共、新川郡之儀古格之通持林共に過怠免可有之儀と、丑十月四日於御算用場杉浦權佐罷出、御奉行并御横目僉議之上相極候事。

享保十八年十一月四日

朱書。追加、大塚咄に、百姓拜領材木之儀委敷可僉議。

持山は惣村に懸る。持林は其人に當る故に、持山之木拜領と願時は重し、持林之儀は輕しと有之。又同人咄に、元祿九年松盜人凡八百人程有之候。此儀は前田駿河殿此年見立願不被承届故、右之通に候由。夫より松盜人之御刑法緩く成候由也。松盜人、頭振は定檢地所を渡り、里子に被仰付、黨を組盜候得ば御成敗也。

七木御定之事

松 栗 杉 槻 檜 桐 梅
是則能州之分。加州能美・越中同事、梅之代り槇、槻之代り栲。

朱書。右七木之儀、田井村喜兵衛に尋候得ば、石川郡も栗・梅は無之、残る五木之由。栗は、正徳四年五月八日御算用場より小杉郡奉行吉屋六丞・加藤九郎太郎に之紙面寫、喜兵衛持參す。其紙面之趣は、栗は元來御縮と申儀無之候所、心得違に而如此に候。向後惣御郡并百姓持山に有之木、勝手次第伐取候様に可申渡候。則先年御定書之寫貳通指越申候と相見え候。貳通之寫は無之候。栲之字何と唱候哉存不申と、喜兵衛申。

石佛村平七郎に尋候へば、新川も五木に候。其後松はだ、五葉・ひめこ、御留木に被仰渡旨申候。

三九 十村等改名届出之事

一、相神村彌傳次名改申度旨書付指出、奉行中に相違、御

用番に被達候所、御開届之旨被仰渡。

其方儀、彌五郎と相改申度旨、願之通御用番に茂相達候條、可爲勝手次第候。以上。

戊辰三月晦日

吉岡理太夫印

平野安左衛門印

相神村 彌傳次

前々は改候名調候得共此度示談之上如斯。

名替案内所々

能州御郡奉行 所口奉行 宇出津奉行 御米所
御代官割 御知行所 御塩所

十村等名替之儀に付先格留

一、御扶持人十村は窺に成候事。

朱書。延享三年子三月津幡江村源太郎・宮丸村治左衛門名替之節、年寄衆御開届に而濟。

一、平十村・新田裁許は役所に而裏書、改作奉行御用番迄